

礼拝休止中の伝道者の黙想から想ったこと（2頁あります）

（「伝道者黙想聖書箇所」をクリックするとホームページに掲載している伝道者の黙想が開きます）

伝道者黙想日付	伝道者黙想聖書箇所	まさお の想い
6月12日	ルカの福音書 第12章 6節	落第生だった大学2年生のときの自分が神さまには忘れられてはいなかったことを想いました。そのころの自分のように自分の欲望の奴隷になってしまっていたり、真面目に勉強をしたくとも家庭の事情で勉学にうちこめない学生たちのことを想いました。教師にとって手間がかかる学生たち一人ひとりを神さまが忘れておられないことを想いました。
6月10日	エペソ人への手紙 第3章 14～21節	パウロの獄中で一人で膝をかがめた祈りから、戸村先生の一人礼拝のことを想いました。神のキングダムがイエスを王とする人々の心の国であることを想いました。
6月7日	マタイの福音書 第6章 26節	鳥を愛して養われている父なる神さまの力、僕たち人間に鳥よりも重い責任と役目を与えてより優れた者として養ってくださっている神さまの力、僕たちがずれて責任を果たせない罪を愛するひとり子を十字架にかけてまで取り去ってくださった神さまの愛と力を想いました。
6月2日	ヨハネの福音書 第6章 63節	聖霊が与えられるいのち、イエスが語られたことばが霊であり、いのちであること、を想いました。肉の誘惑が強いけれど、ことばが静かに小さい声で語られること、静まらなければ聞こえないこと、を想いました。
5月30日	ピリピ人への手紙 第4章 12節	ピリピ4：12とその根拠の13節を読み、箴言 第30章 7～9節と、この世での不足からの誘惑、この世の富や名声があるときの誘惑を想いました。5月30日の日本経済学会の理事会で副会長に就任しました。神さまがくださった名誉と重責を想い、イエスさまの力で責任を果たして実を結びたいと祈ります。
5月25日	ヨハネの福音書 第11章 25節	本当の「いのち」とは何か、ということを想いました。生きているようでも神さまの愛から離れて死んでいる自由も与えられているし、ロゴスと信仰でつながって神の愛に迎えて道を歩み生きる自由も与えられている。

5月23日	マタイの福音書 第7章 7節	4歳のときに信仰を捨ててしまい19歳のころまでに転落していった自分、いかさまをやめて誠実に生きることへの信頼をいただき、だんだん本当の幸せを求め、探し、ついには天の門を叩くように自分を導いてくださった神さまの愛と力を想いました。
5月21日	ヨハネの福音書 第12章 24節	この聖書箇所は父が亡くなったときに「いぶき」に書いた記事でとりあげた聖句だったことを思い出しました。死のとげを取り去ってくださりいただいている自分や周りの人々の命にしがみつきたい気持ちから解放してくださった主の十字架を想います。
5月17日	コロサイ人への手紙 第4章 6節	塩が多すぎても辛くなりすぎるし、塩が少なすぎても味がない、ということを感じました。絶妙なバランスをくださる主イエスさまにあって言葉を発していきたい、と感じました。
5月13日	ローマ人への手紙 第8章 28節	信仰を持ってすぐの時から私が最も好きな聖句です。神が注いでくださる愛と、自分に絶望するものが注がれた愛で愛せるようになっていく祝福のことを想いました。
5月11日	マタイの福音書 第4章 4節	肉体を維持してくれる食物、魂を維持して成長させてくれるみことばを想い、それらをくださる神さまの愛の心に感謝します。
5月7日	マタイの福音書 第11章 28～30節	いつでも待っていてくださり嬉しい祝福をくださるときも、つらい試練を許されるときも、愛の動機でそうして下さっていて、僕たちが来るのを待っていてくださる主イエスさまの心を感謝します。私は神さまの祝福の食物や仕事やこの世の命や永遠の命に心が向くことが多いので、今日はそれらをくださる神さまの愛の心に心を向けて感謝したいと思っています。